

地域に根ざした支援学校の抜本的増設を

「早急に児童生徒増に見合った府立支援学校の新校整備を求める請願」署名

大障教ニュース

大阪府議会に3万6984筆を提出

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

署名手交する保護者



通学区割変更や教室転用ではなく 地域に根ざした支援学校整備を

2月15日、大阪の障害児教育をよくする会(以下、よくなる会)、大阪障害児・者を守る会、障害者(児)を守る全大阪連絡協議会、全国障害者問題研究会大阪支部で構成する大阪障害児教育運動連絡会は、「早急に児童生徒増に見合った府立支援学校の新校整備を求める請願」署名を、大阪府議会事務局に手交し、府議会各会派への要請行動にとりくみました。提出・要請行動には、各地域「よくなる会」や障害児者団体の代表など、11人が参加しました。当日までに集約された署名は3万6984筆に達しました。

署名手交にあたり、よくなる会の山内事務局長は、2018年6月に「大阪府立支援学校における教育条件整備を求める緊急アピール」を発表以降、さまざまなところで府立支援学校の現状と府教委が発表した「府立支援学校における知的障がい児童生徒の教育環境の充実に向

同日午後、大阪の障害児教育をよくする会、大阪府立高



とりくみを報告する保護者

くみました。当日までに集約された署名は、20万2307筆でした。

すべての子どもにも学ぶ権利の保障を

「30人学級の早期実現!」と「助成の削減撤回・大幅増額」などの訴えが目を引く。子どもたちにもゆきどといた教育を!と訴える。多くの教職員のみなさんに「協力をいただき、ありがとうございます。」と感謝の言葉を述べた。各会派への要請行動では、参加者が子どもたちの教育条件整備を願う声を届け、請願の採択への協力をお願いしました。

校30人学級をすすめる会、大阪市立高校30人学級をすすめる会、大阪私学助成をすすめる会、子どもと教育・文化を守る大阪府民会議の5団体は「すべての子どもたちにゆきどといた教育を求める請願」署名の府議会提出集会をドーンセンターで開催しました。集会後、参加者は大阪府庁内で、府議会事務局に集約した署名を手交し、引き続き府議会議長・副議長との懇談、府議会各会派への要請行動にとり



大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



大阪湾に浮かぶ人工島、夢洲には広大な空き地がひろがっています。「税金の無駄遣い」「負の遺産」とも言われる殺伐としたこの地は、地震による液化化や津波の被害が懸念される場所です。しかし、関西の経済界は「夢洲が国際観光拠点として世界的に認知される千載一遇となり、効果は絶大」、できなければ「致命傷」などと、万博の前にIR(統合型リゾート)を先行開業させるよう、行政手続きや工事を急がせています。

2月12日には、大阪府・市のIR推進会議が基本構想案を発表しました。国際会議場、展示場、ホテルなどを合わせたIR施設の総延べ床面積は100万平方メートル、東京ドーム20個分を超える広さで、「世界最高水準の成長型IR」を掲げています。IR全体の年間売り上げ4千800億円に対して、その8割の3千800億円はカジノの売り上げ(客の負ける金額)になると見込まれ、文字通りカジノ中心のリゾート施設です。

3千800億円の年間売り上げは、世界最大のマカオのカジノには及びませんが、「超巨大カジノ」を目指すもの変わりありません。年間利用者2千480万人のうち、カジノ利用客は590万人と見込み、外国人から2千200億円、日本人から1千600億円もの賭け金を巻き上げようという計画です。

IRを推進しようとする人たちは、「万博やIRが来れば夢洲は夢の島になると声高に叫んでいます。しかし、ギャンブルに人生を託して、そこから抜け出せない人たちが増やすことが、果たして未来につながるのか?」今は、立ち止まって冷静に考える時ではないでしょうか。

全国障害児学級・学校交流集会に参加して(感想その2)

集まっていたながることで元気になる

震災はまだ終わっていない

今年は、全国学級&学校交流集会に全日程参加しました。藤井克徳さんの記念講演では、ナチスドイツのT4作戦や断種法、優生保護法など、障害のある人が虐げられてきた歴史と憲法を守る重要性を学びました。憲法97条の「基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であって、過去幾多の試練に堪え」の部分の重みを感じました。2日目以降に参加した「キャリア教育」や「青年期」、「改訂学習指導要領」の講座や分科会では、型にはめた人材を生み出すのでなく、自己決定することを大切に、子どもからスタートした実践がすばらしいことを実感しました。学習交流集会では集まって、つながることで元気になります。学んだことを心にとめ、大切なものを日々の忙しさの中で見失わないようしたいと思います。一緒に行った青年が、「全日程参加して、参加しないとわからない学びがあった。」と話してくれ、より充実した3日間に感じました。

あの日、パソコンの作業をしていた時、急にめまいにおそわれた。自分の次の任用が決まった日。大きな地震だった。事務室のテレビを見た時、たくさんの車が水に流されていた。教室をまわって帰り支度をする児童や先生に大丈夫だったか急いで確認と現状を伝えた。あれから8年経とうとしている。実際に目で確かめたいと思っていたが、1歩踏み出せなかった。今回すぐに参加を決め、フィールドワークで自分の足で歩いて目で見てテレビで見た風景を肌で感じた。小高い日和山の周り360度が海になった当時を想い浮かべながら、家々がなくなってしまうた更地を眺めた。大きな揺れか津波だけでなく車が流され燃料庫に突っ込んで火災も起こる。子どもたちが自分のいた所が燃えるのを見ないようにブルーシートで囲んで暖をとったと聞いた。そこにはテレビで見た映像よりもおどろおどろしい状況があったのだ。3月、雪も降っていた。線路の枕木やお墓の卒塔婆を燃やして暖をとった。そうだ。仮設住宅の今も見えてきた。もう8年、仮設住宅はほぼ無くなりかけていた。ここに来て知ったのは、1階だけが流され2階で生活できる家は仮設住宅にも入れない取り残された被災者のこと。宮城の教育も大

変だった。仮設住宅は申込み制。どこに住めるかは分からない。隣同士に住んでいる小学生が別々の小学校に向かつていくこともあった。そうだ。宮城の新聞を見るとまだ未発見の人数等が載っている。1200人まだ帰っていない。不登校、いじめ、小学1年生の荒れ、震災の影響はまだ残っている。



開会全体会資料から

基本に立ち返ることを教えてくれる

この集会は、いつも基本に立ち返ることを教えてくれる。同時に、今の全国的な情報を得られることで、自分の勉強になります。全国の仲間と交流、再会できることも楽しみになっています。今回も、新しい知識、情報を得ることができました。また、若い先生方の子ど

もに寄り添い、発達を大事にした報告を多数聞くことができ、元気をもらいました。新しい指導要領がスタートしましたが、「人格の完成」をめざす教育の在り方について再確認できました。(生野聴覚支援学校分會 中道勝久)

（枚方支援学校分會 佐々木起美子）

大障教女性部学習会

会場がいっぱいに「性の多様性」について学びました



大障教女性部では女性部委員会の前に学習会を行っています。12月8日は、京都学院大学・追手門学院大学非常勤講師の桂容子先生をお招きし、「性の多様性について 現状と課題」というタイトルでLGBTについて学習しました。学習会への参加もあり、705の部屋がいっぱいになりました。

2017年に閣議決定された自殺総合対策大綱では、性的マイノリティに自殺念慮の割合等が高いことが指摘されており、無理解や偏見が要因の一つであると捉えています。教職員のことが当事者を傷つけたり、無理解や偏見を拡げ、いじめにつながったりする場合もあり、教職員の理解を促進することの必要性も指摘されました。

性を理解するためのファクターとして、性的指向と性自認についてもお話があり、LGBTの多様性については、最近ではQ(クエスチョニング)=自分のセクシュアリティを特定したくないという人も含めてLGBTQという言い方もされるようになっていたり、その表現では足りないくらい、もっと多様であることも話されました。また、マイノリティ(少数者)という表現が妥当かどうかという指摘もありました。同性婚を認めている国や同性パートナーシップ制度を設置した自治体についての紹介もありました。

学習会後には「人間の性の成り立ちは複雑なのだということを、自分自身の性についても今まで深く考えなかったということを感じさせた」「子どもたちの中に対象の生徒がいたときに教員のことばで傷つく生徒がいるということは重く受け止めて、教員も意識を持つことが大切と感じた」など、これからもっと学んでいきたいという感想をたくさんいただきました。